

尾崎士郎記念館企画展

人生劇場

-青春篇-特集



「人生劇場-青春篇-」初版本

平成20年7月29日(火)～平成21年1月18日(日)

尾崎士郎記念館

〒444-0524

幡豆郡吉良町大字荻原字大道通18-1

(吉良町立図書館隣接)

Tel 0563-32-3400 Fax 0563-32-3700



挿絵「序章」題字



挿絵「瓢吉は「大隈老侯」の銅像・・・」



挿絵「大蔵はお袖の右腕・・・」



挿絵「竜はすっかり吉良常を・・・」

士郎さんの代表作『人生劇場』は、昭和8年3月から都新聞（現・東京新聞）に連載された後、2年後には竹村書房から単行本が刊行されて、大ベストセラーになりました。その後、『人生劇場 青春篇』は映画、テレビドラマ、舞台などで繰り返し取り上げられ、青春小説の傑作として不動の地位を築くこととなります。

『人生劇場』は、青春篇に続いて「愛欲篇」「残侠篇」「風雲篇」「遠征篇（後に離愁篇に改題）」「夢幻篇」「望郷篇」「蕩子篇」と昭和34年まで全8編に渡って書き綴られた、まさに、士郎さんの人生そのものを作品とした大作といえます。

今回の特集では、士郎さんの小説家としての地位を確立することとなった『人生劇場 青春篇』を取り上げ、洋画家の中川一政筆の挿絵など、一部新たに遺族より寄贈を受けた資料を含め展示をします。



挿絵「畑地の向こうに西尾・・・」

<あらすじ>

冒頭の舞台は三州横須賀村(吉良町北部)法六町で、肥料問屋の辰巳屋である。辰巳屋の主人青成瓢太郎は、同郷の博徒である吉良仁吉を好いており、長男瓢吉もその生き様を継いでいる。

瓢吉憧れのおりんは生活苦から東京へ芸妓に出され、岡崎中学、早稲田大学へと進んだ瓢吉は、大隈重信総長の夫人の銅像建設計画に対して反対を叫び一躍時の人となる。

その頃、おりんは新橋のあかし家で光龍と名乗り、売れっ子芸妓に出世していた。瓢吉はというと、江戸川べりにある柳水亭の看板娘お袖に惚れ、相思相愛の仲となる。

一方、瓢太郎は借財に苦しみ、瓢吉に遺書を残しピストル自殺をする。

瓢吉は帰郷し、葬儀にはおりんの母親も吉良常も参列した。

瓢吉は郷里を捨てる決心をし、母親と吉良常を連れて上京する。



「人生劇場-青春篇-」普及版

<士郎さんと中川一政>

士郎さんは、都新聞の文化部長の上泉秀信から連載小説の依頼を受けます。当時、短編作家として折り紙をつけられていた士郎さんにとっては、従来のを破るチャンスとして「人生劇場-青春篇-」を執筆します。

挿絵を担当したのは、洋画家の中川一政で、「瓢々録」では中川は次のように士郎さんとの間柄を記しています。

「私は尾崎君と親交があるように思われているけれども、はじめて会った時から35年ぐらいになるだろうが、尾崎君の家へ生前たずねたこともなければ、酒席をともにしたこともない。しかし、芝居や相撲場で会って手を握ると、握りぐあいがある人の場合と違う。プラトニックの親交というものだろう。」

「尾崎君もこの気合が楽しかったに違いない。尾崎君がどんな事をかいても、私が勝手をふるまっても調子がくずれない気合というのは、太夫と三味線弾きの親愛に違いない。」

また、「小説四十六年」で士郎さんは、「さし絵は中川一政で、二人の感情は実にぴったり調和していた。」

「この本は、すべて中川一政の指図によって行われ、装幀に対する中川の苦心も並み大抵ではなかった。」と記しているように、士郎さんの中川に対する信頼が伝わってきます。



「人生劇場-青春篇-」公演 昭和10年
築地小劇場 千田是也演出

<中川一政>

画家。1893年（明治26年）東京本郷に生まれる。21歳のとき最初に描いた作品「酒倉」が岸田劉生に認められ、画家を志す。

油彩の他、岩彩（日本画）書・篆刻・陶芸・装丁などその創作活動は自由奔放で多方面に渡る。また屈託のない文章で知られる随筆、紀行文など著書も多い。

士郎さんの著書『人生劇場』『厭世立志伝』『石田三成』などの挿絵をてがける。

1975年（昭和50年）82歳で文化勲章を受章。1991年（平成3年）2月5日死去。享年97歳

「人生劇場 - 青春篇 - 」特集の展示品目録

①書籍	『人生劇場 青春篇』 竹村書房発行初版本	1点
②同上	『人生劇場 青春篇』 竹村書房発行普及版	1点
③同上	『人生劇場 青春篇・愛欲篇』 新潮社発行	2点
④同上	『人生劇場 青春篇』 文芸春秋新社発行	1点
⑤同上	『人生劇場 青春篇』 各種単行本	6点
⑥人生劇場表紙原画	『人生劇場 青春篇』 中川一政	1点
⑦新聞挿絵原画	『人生劇場 青春篇』 都新聞掲載 中川一政	14点
⑧人生劇場原稿	『第55回 青春篇・才子佳人を得たり(二)』複製	1点
⑨書籍原稿	『瓢々録』中川一政	1点
⑩推讃状	(昭和12年文藝懇話会より受賞(副賞は書斎の火鉢)	1点
⑪新聞	(「人生劇場-青春篇」都新聞掲載写し)	3点
⑫書籍ポスター	(「人生劇場-青春篇・愛欲篇・残侠篇」(六興出版社))	1点
⑬写真	(「人生劇場-青春篇」関係写真)	2点
⑭映画チラシ	(「人生劇場 青春篇〈昭和33年〉」)	1点
⑮映画写真	(「人生劇場 青春篇〈昭和33年〉」関係写真)	4点
⑯公演ポスター	(「人生劇場」公演 築地小劇場 昭和10年)	1点
⑰公演写真	(同上)	4点